



特定相談支援事業所ケアプランえん 新座市基幹相談支援センターえん

引越しました!



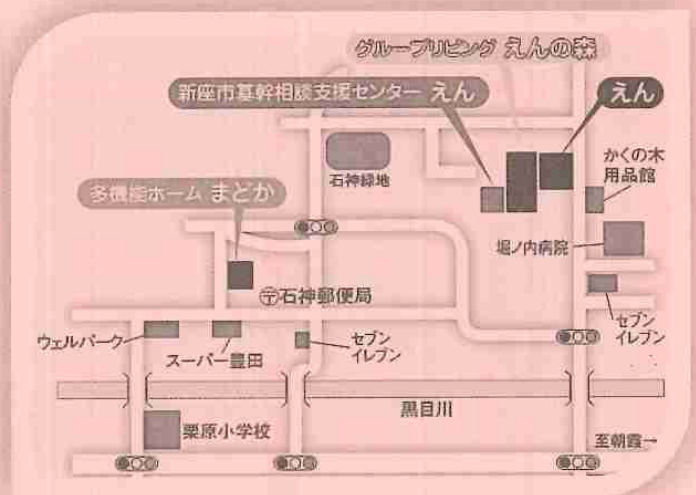
イラスト/寺山寿子



令和4年3月31日、えんの敷地内グループリビングえんの森の隣に、特定相談支援事業所ケアプランえん・基幹相談支援センターえんがお引越しました。

窓からは石神緑地の青々とした木々がのぞき、鳥のさえずりが聞こえてきます。自然のBGMを背にスタッフ一同張り切って仕事をしています!

障がいを持つ方々が自分らしく地域で暮らせるよう、一緒に歩いていけるよう、お手伝いさせていただきます。ぜひ、お立ち寄りください。(スタッフ一同)



戦争は高齢者、障がい者、子どもの敵です!

今年の連休は3年ぶりに蔓延防止措置なしで、行楽地はにぎわっています。皆さまいかがおすごでしょうか。

暮らしネット・えんでは、毎週実施してきた全員対象のPCR検査で、3月半ばにデイホームえん職員の陽性が発覚、濃厚接触者は「なし」でしたが大事をとって3日間休止。4月に入ると訪問介護ヘルパーが陽性、利用者さん1名が濃厚接触者に認定されました。心配な方全員にPCR検査を行った結果全員陰性。2名とも花粉症のような軽症で、定期検査がなければ感染を広げたかもしれません。おかげさまで、クラスター感染は今のところ発生しておりません。ご迷惑をおかけいたしました方々に心からお詫び申し上げます。

2月24日、ウクライナにプーチンのロシアが攻め込みました。寝たきりや歩行のおぼつかない高齢者が逃げていく映像や、チェルノブイリ原発を占領し放射能汚染された土で多数の兵士が被ばくしたというニュースが伝えられてきました。

すると日本でも「敵基地攻撃能力」だの、「核兵器をもたないとやられる」だのと声高に語られるようになり、防衛費を2倍にしたいと言い出しました。6兆円から12兆円です。2020年度の介護保険は総額10.8兆円ですが、介護保険の半分は私たちが支払う保険料で、国の持ち分は約3兆円。介護職員の賃金を上げるために税金をもう少し投入できないかといっても、いい返事は聞かれません。兵器を買うお金になるとあっさり倍額が示されます。

考えてみてください。高齢化率は30%を超え、認知症有病者は最大1千万人になるという国が戦争に巻き込まれたらどうなるのでしょうか。戦争で犠牲になるのは兵士だけではありません。今日もウクライナでは逃げられない子どもや高齢者、障がいがある人々が犠牲になっています。

すぐさま片付くつもりが泥沼にはまっていくロシアの姿は、日中戦争時の日本にそっくりだといいます。私たち戦後生まれは、先の大戦で生き伸びた父母の子孫、父母

から聞いた悲惨な戦争体験を語り継ぎ、戦争反対の意思を伝えていく義務があります。ロシアが使用をほのめかす実用的な「小さい核兵器」は、広島に落とされた原爆の数分の一とか。小さかろうと一生後遺症の危険にさらされるのが核兵器。介護・福祉は戦争で最も被害を大きく受ける人々を支える仕事です。「戦争は政治の失敗」です。戦争反対を強く強く訴えましょう。



イラスト／細井美風

(代表理事／小島美里)

母、小幡信子の戦争体験 聞き書き

母の100歳の誕生日を迎えるに当たり、人生の中で特別な意味を持つ戦時中の体験談を、ザックリと書き留めてみようと思い立ちました。

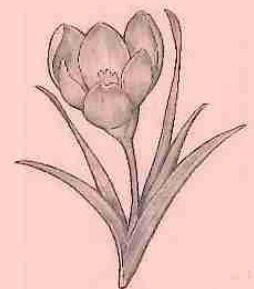
看護婦だった母が戦地に赴いたのは第二次大戦も末期のことです。大戦中最悪の作戦といわれたインパール作戦の前に、多くの犠牲者を出しながら、泰緬鉄道を建設し、銃後の守りとして、ビルマ国民の懐柔政策として、首都ラングーンに、市民病院を建設、その運営を慶応大学付属病院に委託しました。大学側は大反対だったそうですが、拒否しきれずスタッフが選抜され配属されました。

インパール作戦の前は、比較のおだやかで国にいるより恵まれた生活だったようです。同じ病院からスタッフが赴いたせいか診療内容は良好で、病院内だけでなく、少数民族の村々へ巡回診療にも行っていたそうです。カレン族の村々だったのか母は片言のカレン語を記憶していました。この頃の母が、特に理不尽に思ったのは、同じビルマ国民同士、民族によって厳しい身分差別があったことだそうです。ビルマ人、インド人、少数民族、民族ごとに差別することによりいがみ合わせ、宗主国（英国）が管理統治しやすくするためです。

平穏な日々はすぐに終わり、インパール作戦が始まった後は凄惨を極めたそうです。やがてラングーンにイギリス軍が侵攻してくることがわかり、タイに撤退することが決まったのですが、軍は病院の備品や薬などを全部、破壊するよう命令し、泣く泣く土中に埋めたそうです。赤十字の旗をたてた船で、病院スタッフたちは一路タイのバンコクに向かうのですが、途中爆撃されました。船中で母は二人の同僚看護婦と長椅子に座っていたのですが、母の両脇にいた同僚が被弾し亡くなったそうです。母は手にかすかに残るやけどの跡を眺めながら何度も、子どもだった私たちに、しんみりと語っていたのを思い出します。

母は、看護婦の仕事をおそらく一生続けていくつもりだったのだと思います。ある時、母に「どうして病院を辞めてしまったの？」と聞いたことがあります。最初は口ごもっていましたが、「手術室のチーフになれと言われたからよ。それだけは、どうしても嫌だったのよ」。経験は豊かだったのでしょうが、毎日のように凄惨な思い出がよみがえって来るのでは、繊細な母の神経は持たなかったと思われます。

かくして母は病院を去り、友人の兄だった父と結婚し、今の私たちがここにおります



イラスト／細井美風

聞き取り：仲野万里子（長女）

暮らしネット・えんの コロナあれこれ



訪問介護事業所ケアサポートえんより

利用者さんが熱発！事務所に緊張が走る、ケアマネさんやご家族との連絡、ヘルパーが訪問する場合の感染対策グッズの準備、誰が訪問する！？とにかく毎回みんなで考える。

学校や保育園の閉鎖で仕事に出れないスタッフがいた。利用者さんにも迷惑かけたけど皆がフォローしてくれて乗り切れた。

濃厚接触者になった。PCR検査の結果が分かるまでヒヤヒヤドキドキ…

コロナが始まった初期、熱の出た利用者さん宅へは割烹着にサンバイザーで訪問、レインコートや耳で計る体温計、つなぎ服を作業着屋へ買い占めに走った！

人と関わることがヘルパーの仕事。人と接触しないことはできない。現場で働く私たちにはオンラインで仕事はできない。

「利用者さんが感染したら訪問しない選択はしない」というスタッフたちの言葉に安心した。

マスクマジック、外してわかる本当の顔！

障害者特定相談支援事業所ケアプランえんより

中学1年の障がいの利用者さんが感染、隔離して日常生活を1人で送るのはむずかしい。母親は感染覚悟で、食事・入浴・寝室もいっしょで、いつも通りに生活。でも感染しなかった。すごい!!!

ワクチン接種2回目の当日午前中「付き添ってもらおうお母さんの具合が悪くなって行かない! どうしよう!」と本人から電話があった。お母さんの具合を確認したが回復しなかったため、相談支援専門員が同行、無事2回目の接種を済ませることができた。

感染した人から…

自分が感染し、家族も濃厚接触者となり外出できない。食べ物・飲み物、何とかなると思ったがとても困った。ちょっとした買い物にも行けない、ストレス。高齢者や一人暮らしの人、どこに頼っていいのかわからない人、どうするんだろう…

家族の事ばかり気になって自分の具合が悪い事に気づけなかった。気づいた時には、起きられず、頭が痛くて苦しかった。

自分が感染した時に周りの人達に「気にしなくても大丈夫だよ」と言ってもらえた。心配して電話をくれたり、人の温かさを感じた。

治療法が確立されていないこと、急変してしまうのではないかと、人にうつしてしまうかもしれない、亡くなっている人がいること…家族が亡くなってしまったらどうしよう…不安。

保健所からの連絡がなくて困ったし、不安だった。

「陽性です」と連絡を受けた日の午前中は信じられず、この後の生活や仕事が心配だった。午後に発熱外来で（発熱なしでしたが）PCR検査を受けて「(-)です」と伝えられ、2度びっくり。周りの人には「心配しないでゆっくりしてください」と声をかけられ、感謝！

新型コロナの流行から2年が経過し、未だに安心できる日は訪れていません。陽性や濃厚接触に誰もがなる可能性があります。どのような状況になっても、互いを思いやり、優しさをもって困難な状況にも、皆で一緒に力を合わせ乗り越えていきたいと思っています。エイエイオー！！（ケアサポートえん／桑原美香）





～服薬支援ロボットで、飲み忘れをサポート～

こんにちは、かくの木薬局です。私たちは地域に根ざす薬局として、みなさまが住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けるために、健康や医療の面からサポートしていきたいという思いを持って、日々取り組んでいます。

お薬を正しく飲むことは治療の基本です。しかし、認知機能の低下などでお薬の管理が難しい患者さんがいます。そのような場合には薬剤師が自宅に訪問して、その患者さんの状態や生活に合わせた服薬方法を支援します。多く利用されているのが、お薬カレンダーです。1回分ずつのお薬を朝、昼、夕、寝る前にセットして管理します。しかし、日付や時間が分からなくなってきた患者さんでは、飲み忘れを防ぐことができません。

そこで、まどかのケアマネさんの要望もあって導入したのが「お薬ロボット」と呼ばれる服薬支援機です。付属の容器に1回分ずつ薬をいれて1週間分セットします。設定した時間になると「お薬の時間です～」という音声と共に薬入りの容器が排出されます。患者さんはその容器を取り出して薬を飲みます。もし、40分たっても取りださない場合には機械の中に戻されます。中の容器は外から取り出せないようになっており、重複や飲み間違いも防ぎます。

このお薬ロボットには通信機能があり、薬を取り出すとメールで連絡がきます。これによって、別の場所からも服薬の確認ができます。ケアマネさんやご家族にも通信できますので、服薬だけでなく、安否確認にもなり安心です。特に、独居で服薬に声かけが必要な方、老老介護でうっかり忘れが多い方などには効果的です。



「お薬さん」全面写真

一方で、認知症が進んで容器を取り出す手順が理解できない方、また、外出が多く生活が不規則な方への利用はうまくいきませんでした。このように相性はありますが、上手に機械を活用できれば安定した服薬が維持できます。服薬管理にお悩みの方は、お気軽にご相談ください。

(かくの木薬局／武笠真由美)

一人暮らしのAさんは認知症がありますが、その時々判断は保たれています。服薬カレンダーでの飲み忘れが増えてきたころ、かくの木薬局さんに服薬支援ロボットのデモンストレーションをお願いしました。さっそくAさんに使用していただくと、飲み忘れがほとんどなく毎日の血圧が安定し、2年以上大好きな家にいることができました。

丸山久恵さん 100 年インタビュー 最終回



～100 歳のお誕生日を心から祝して～

●祐天寺の五本木通り商店街に店舗兼自宅を建て夫婦で独立 (34 才)

- 朝 5 時に起きて、夫婦で自転車に乗って近くの世田谷公園へ行ってねえ、バトミントンを 1 時間やってたよ。帰ってから朝ごはん食べて、夫は自転車に新しいふとんを積んで一日 6 件くらいお得意先を回ってた。築地の方まで行ったこともあったよ。私はふとんやカバーをミシンで縫ってたよ。ごはんは商店街のおかずを買うことが多かったねえ。
- 近所に上原謙が住んでたよ。あと、こまどり姉妹。百恵ちゃんも住んでた。上原謙は可愛い娘さんがいてねえ、毎朝、送っていくの。背が高くて恰好良かった。それから近くにアメリカ人の外交官家族が住んでいて仲良くしてたよ。アメリカに干し柿を送ってくれていってね。お返しにチョコレートをくれたよ。
- 渋谷に東横線をよく買い物に行ったよ。東急とかね。主人の同僚の奥さんと待ち合わせして。その人と渋谷のこんもりとした森がある公園で、握り飯や弁当持って行ってねえ、食べようとしてたら学生さんが通って、お握りをすうっと持って行っちゃった。当時は食べるものないし、学生はお金ないでしょ。「もう一個あげるから戻っておいで」て声かけてね、そしたら戻ってきて「すまない」って言ったよ。懐かしい思い出がいっぱいありすぎて、夢の中で大騒ぎするよ。

●出産、子育て

- 長男は自宅で近所の産婆さんが来てあっという間に産まれたよ。田舎の母親が手伝いに来てくれてたねえ。健診とか母子手帳なんてそんなもん何にもなかったよ。長女は 3 年後近くの病院で、棒につかまっているうちにすぐ出てきた。
- 子供を叱ったことなんかないよ。通信簿はあったけど成績なんて全然気にしなかった。勉強しなさいって言ったこともない。元気に遊んでくれりゃあいい。先生の言うこと聞かにゃダメだよと言うだけ。息子が石ころ持って学校へ行った時も、隣りのお菓子屋さんのおばあちゃんがいさめてくれたしねえ。

●夫が亡くなる (70 才)

- 夫は仕事で体を酷使して内臓を悪くして病院に入院してねえ、二人で長野県歌「信濃の国」を最後まで全部歌って亡くなりました。涙が出ましたねえ。私が 70 才の時でした。
- その後のことはあんまりおぼえてなくてね。それから一人で暮らしましたけどさびしくはなかったねえ。ここ（グループホームえん）を勧めてもらって、ずいぶん迷ったけど決めました。人の物をお願いだからとらないでって言いたいだけで、他にこんないい所はないと思って感謝してます。

（聞き書き：長谷川洋子、西崎麻子）

● 第20回定例総会のお知らせ ●

日時:2022年6月26日(日) 場所:新座市立中央公民館体育室

13:30~15:30 定例総会

15:40~16:40 総会記念 トークイベント



イラスト/細井美風

お話し 福島あつしさん(写真家)

『ぼくは独りぐらしの老人の家に弁当を運ぶ』

NHKETV などで紹介された『ぼくは独り暮らしの老人の家に弁当を運ぶ』写真展を準備中です。開催日など決まりましたらホームページなどでお知らせいたします。

※感染予防には万全を期して開催いたしますが、体調不良、発熱等ある方は出席を見合わせてください。

◆ 認知症電話相談のお知らせ ◆

認知症に関する悩みごと、介護のコツや生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

毎月第3水曜日 10時~16時 TEL 048-480-4150

~今後の地域交流事業について~

認知症カフェは7月縮小して開催予定
(お問い合わせください)
だれでも食堂にいざはお休みさせていただきます。

~新型コロナウイルス対策~

4月末現在、蔓延防止重点措置は解除されていますが、新型コロナウイルスの流行は収束していませんので、感染防止対策につとめてまいります。

職員大募集！！

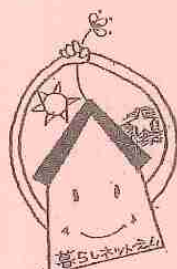
離職率が低いと評判の暮らしネット・えんで一緒に働いてみませんか？
ヘルパー(訪問介護職員)・介護職員・送迎運転担当者募集しています。
資格がない方も資格取得のお手伝いをいたしますので、ご相談ください。

地域で暮らし続けていくために 2021年度新規・継続会員募集中！

正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:https://npoenn.com/